

## 豚肉情勢

12月12日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項目	内 容	備 考	
		国内生産量の推移 (千頭:%)	農水省出荷予測 (千頭:%)
供給	1.国産	○ 10月の全国豚と畜頭数は、1,478千頭と前年を上回った。(前年比101.5%) 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道103.6%、東北104.6%、関東100.7%、北陸甲信越104.0%、東海100.8%、近畿95.6%、中四国103.2%、九州・沖縄99.1%	○ 10月の全国豚と畜頭数は、1,310千頭(速報値11月30日まで集計、前年比92.9%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より2日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は72,794頭(前年実績:70,494頭/日、前年差2,300頭/日)となった。
		○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;11月25日付け)によると、12月;1,475千頭(前年比101%)、2026年1月;1,342千頭(同96%)、2月;1,247千頭(同97%)、3月:1,406千頭(同104%)、4月:1,392千頭(同101%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約100%と前年並みの見込み。	○ 10月の輸入通関実績は、豚肉全体で85.0千t(前年比97.9%、前月比111.4%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが38.5千t(前年比112.6%、前月比113.0%)、フローズンは46.5千t(同88.3%、同110.0%)となった。 輸入相手国別では、チルドはカナダ、メキシコが増加した。フローズンはブラジル、チリが増加した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド ;カナダ21.2千t(前年比121.4%)、米国13.2千t(同99.1%)、メキシコ4.1千t(同120.2%) フローズン ;スペイン13.9千t(前年比92.9%)、ブラジル11.1千t(同116.0%)、メキシコ4.6千t(同84.1%)、米国4.1千t(同68.7%)、チリ3.7千t(同111.5%)、デンマーク3.6千t(同77.3%)
		○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月26日公表)によると、11月の輸入量:75.9千t(前年比97.0%)、12月の輸入量:75.2千t(同98.3%)と見込まれる。 チルドは、11月は米国産の価格が高水準にある中、カナダ産及びメキシコ産の増加が見込まれること等から、前年同月を上回ると予測し、12月は前年の輸入量が通関のずれ込み等を受け高水準となったこと等から下回ると予測する。フローズンは、国内の輸入品在庫が多いこと等から、11月、12月ともに前年同月を下回ると予測する。 3か月平均では、チルドは前年同月を上回り、フローズンは下回ると見込んでいる。 令和7年11月:合計75.9千t(前年比97.0%)、チルド34.3千t(同112.7%)、フローズン41.6千t(同87.1%) 令和7年12月:合計75.2千t(前年比98.3%)、チルド33.6千t(同97.3%)、フローズン41.6千t(同99.1%) 直近3か月(10月~12月)平均:合計78.8千t(前年比97.9%)、チルド34.8千t(同105.3%)、フローズン44.0千t(同92.8%)	○ 10月の国内生産量の推移 (千頭:%)
		○ 総務省発表の10月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,892g(前年比106.7%)、支出金額が3,021円(同106.0%)となり、 購入量、支出金額は前年同月を上回った。	○ 10月の農水省出荷予測 (千頭:%)
	2.輸入	○ 日本スーパー・マーケット協会など食品関連スーパー3団体の10月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,266.7億円(前年比103.4%、既存店ベース102.4%)と前年を上回った。 牛肉の低調と豚肉・鶏肉などへの需要シフト傾向は継続している。国産豚肉の相場が安定てきて、スライスや切り落とし等が好調に推移し、気温低下により鍋需要が高まり、全体を牽引した。 牛肉は高止まり傾向から輸入牛が不振だが、国産はやや回復傾向がみられた。鶏肉は価格高騰が続く中でも堅調に推移したが、加工品は不調傾向だった。	○ 10月の農水省出荷予測 (千頭:%)
		○ 日本チェーンストア協会が公表した10月販売概況によると、畜産品の売上は869.0億円(店舗調整後で前年比101.3%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉は鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。	○ 10月の輸入量の推移 (千t・%)
		○ 気温の低下により、鍋物需要が旺盛となったことから、バラの荷動きが良好だったものの、切り落とし等の動きが弱かった。 国内出荷頭数は、月前半が70,000頭/日を割り込む日が多かったものの、月後半は70,000頭/日を超える日が多かった。	○ 10月の財務省:通関実績 (千t・%)
		○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の10月の豚肉加工品仕向量は31.1千t(前年比100.2%)と、加工品の値上げによる販売不振が続いているが、前年並みとなった。 内訳は、国産原料6.5千t(前年比108.8%)・輸入原料24.6千t(同98.1%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーザンドポークは9.4千t(前年比98.2%)と、前年を下回った。	○ 10月の家計消費量 (グラム、円、%)
		○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月26日公表)によると、10月末の推定期末在庫量は231.4千t(前年比103.6%、前月比98.6%)となり、前年を上回った。 内訳は、輸入品;209.5千t(前年比103.7%、前月比98.3%)と前年を上回り、国産品;21.9千t(同102.6%、同101.9%)と前年上回った。 また、今後の期末在庫は、11月は218.3千t(同101.0%)、12月は210.5千t(同101.1%)と前年を上回る見込みで推移するものと見られる。	○ 10月の家計消費量 (グラム、円、%)
需要	1.家計消費	○ 11月概況	○ 11月の家計消費量 (グラム、円、%)
		○ 11月概況	○ 11月の家計消費量 (グラム、円、%)
		○ 3.加工肉仕向量	○ 11月の加工品仕向量 (千t・%)
		○ 1.在庫在庫	○ 11月の加工品仕向量 (千t・%)
		○ 1.R7年11月速報値	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
	2.小売動向	○ 12月の相場は、国内出荷頭数が前年を上回る見込みや輸入チルドポークの数量増等はあるものの、年末年始向けの手当等により需要も増加するため、 強含みでの推移を見込む。	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		<相場予想: 東京市場、税込み>	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		10月実績	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		【上物】(前年比) 557円/kg (90.0%)	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		11月実績(速報値)	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
	○ 12月の相場は、国内出荷頭数が前年を上回る見込みや輸入チルドポークの数量増等はあるものの、年末年始向けの手当等により需要も増加するため、 強含みでの推移を見込む。	12月予測	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		600円/kg (94.0%)	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		1月予測	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)
		580円/kg (97.1%)	○ 11月の市況の推移(東京市場)(円/kg・%)